



食環協

2024. 3. 31

ニュース144

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第24回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

1月26日(金)、「浅草ビューホテル」(東京都台東区)3階「祥雲の間」において「第24回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。本年度は、当協会が設立されてちょうど50周年です。その節目にふさわしく澄んだ青空が広がる中、表彰校の児童や生徒および教職員、保護者の皆さんを始め、行政や飲料団体関係者に遠方よりお集まりいただきました。報道機関も多数駆けつけ、会場は心地よい緊張感に包まれながら、功績を称える盛大な拍手に包まれました。

この表彰は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、38都道府県から推薦を受けた小・中学校38校の中から、審査委員会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校28校の表彰校については、P9以降に掲載されています。



【目次】

○表彰式・懇談会レポートP2
○出席者のスピーチ(要旨) P3~4
○最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー P5~8
○第24回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校一覧P9
○優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催P10~11

表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会的那須俊一会長より、1月1日に発生した能登半島地震により被災された方々へのお見舞いが伝えられました。その後、飲料容器の回収・リサイクル率が日本はトップクラスであること、ボトルtoボトルの水平リサイクル率が向上していることを数字で示し、地域ぐるみの美化活動や受賞校の長年にわたる教育の成果であることを強調しました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容を映像で紹介。各校の地域特性を生かした取り組み、児童生徒や住民のインタビュー映像が披露されると、参加者は、彼らのひたむきな姿に感心しながら静かにうなずいたり、メモを取ったりする様子が見受けられました。

賞状・副賞授与に続き、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。表彰校の映像内容に触れ、地域住民とともに「根っこ」を育む学びが実践されていることや、「根っこ」がその土地の土壌を吸い取り、自ら幹を出し枝を広げて、子どもたちの個性ある葉っぱを育てていくことが大事だと説きました。そして、「表彰校の活動が全国に発信され、日本全体に広がってほしい」と願いを込めました。



また、来賓として出席された文部科学省の藤枝秀樹様、農林水産省の川端匡様、環境省の近藤亮太様から、「美化活動の取り組みの輪がさらに全国に普及し、20年後、50年後、100年後も、皆さんや次の世代の方々が、よりいっそう豊かな環境の下で生き生きと暮らせる社会になっていることを願っています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、都心の夜景が一望できる最上階「ベルヴェデーレ」に移動し、食事や飲み物を囲みながら和やかに懇談会が行われました。乾杯のあいさつでは、那須俊一会長が、「今日は美化活動の『スタートの日』と考えていただき、さらにみんなで頑張っていきましょう」と受賞校をあらためて賞賛し、将来を担う子どもたちにエールを送りました。懇談会の途中、児童生徒や学校長が登壇し、各校の地域風土や環境美化活動を紹介。工夫を凝らし、それぞれの特色をいかしたスピーチに、会場はあたたかい笑顔に包まれました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

地域住民との一体感や「共鳴」を醸成しながら 地域が屋根のない学校として機能

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子様



2020年に大きく変わった教育課程では、学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性などの涵養が求められており、「探究活動」を通して児童生徒が主体性を発揮していく学びが重視されています。そうした教育において大切なのが、地域の中で、大人も含めた方々と相互に「学び合い」が行われていることです。児童生徒は、学校という閉じられた空間だけで学んでいるのではなく、地域とのつながりを実感しながら自己肯定感を高め、自己を確立していくことが重要になります。今年度の最優秀校は、海洋ごみに注目した取り組みが多く見られましたが、ごみの回収にとどまらず、持続可能な地域づくりを目指す学習活動（ESD）の実践を通じSDGsに貢献していることに、審査委員一同大きな感動を覚えました。あらためて、地域の皆さんとの一体感や「共鳴」を醸成しながら、地域が「屋根のない学校」として機能し、「学びは未来への光」であることを再認識できました。

持続可能な社会の担い手の育成に向け 教科横断的な環境教育や農山漁村・自然体験を

文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹様

環境問題は持続可能な社会を構築していく上で重要な課題です。昨年6月に閣議決定された第4期教育振興基本計画では、持続可能な社会の担い手を育成するため、小中高等学校における教科等横断的な環境教育を推進することや、持続可能な社会づくりへの意欲等を高めるために、自然体験活動や農山漁村体験などの活動を行うことが重要としております。今回、文部科学大臣賞を受賞された「鹿児島県屋久島町立金岳小中学校」は、ESD、SDGsの視点に基づいたカリキュラムマネジメントにより、児童生徒に物事を多面的に考える力が備わっていました。こうした取り組みが広まることを期待します。



一人一人の協力があってこそ実現できる 海のプラスチックごみ問題解決

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部
外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 川端 匡様



今回、農林水産大臣賞を受賞された「青森県鱒ヶ沢町立舞戸小学校」は、恵まれた環境を生かして、「海洋環境保全学習」、「鱒ヶ沢町小中一貫ふるさと学習」、「食に関する学習」を横断的総合的カリキュラムとして実施し、農林漁業における環境保全の意義や、地域財産の未来への継承の学びにつなげている点が評価されました。その中の「海洋環境保全学習」では、海岸に漂着したごみを回収し、ごみの漂着ルートを海流から推測したりしていると伺いました。環境問題の中でも近年、海のプラスチックごみへの関心が急速に高まっています。日本はもちろん、世界の各国は、不法投棄対策やごみ削減、リサイクルを進めるなどの政策を打ち出し、環境保全に努めておりますが、これは一人一人の協力があってこそ実現できるものです。今後も、こうした学習で学び、感じたことを日頃の生活に生かして頂ければと思います。

環境や防犯など地域をよくするために一体となる活動が 「地域の力」になる

環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 兼 循環型社会推進室 室長 近藤 亮太様

私は今まで、さまざまな地域の環境保全活動を見てきましたが、地域の環境をよくする活動をしているところは、環境のことだけを考えているわけではないということが実感としてあります。地域をいかに元気にしていくか、地域の子どもたちのことをどう考えていくかなどについて、地域全体で考えているところは、環境保全活動も長く続いています。かつて警察庁に出向していた時に、私は小中学校の登下校の防犯対策にも携わっていたことがありました。犯罪が起きた地域に行ってみてあらためて感じたのは、環境のことを考えて活動している地域は、犯罪が少ないということです。ごみが落ちていない、地域の人が目を光らせている場所は、いい地域であり、いい環境です。こうした環境、防犯を含め、地域をよくしていく活動が一体となって、「地域の力」になっていくのだと思います。今後も、積極性や自発性をなくさないように成長され、社会で活躍して頂くことを願っています。



■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

全島民で漂着ごみ回収する口永良部島の魅力を児童生徒が発信

文部科学大臣賞 ^{かながだけ} 鹿児島県 屋久島町立金岳小中学校

第24回 環境美化教育優良校等表彰 最優秀校
主催：公益社団法人 食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 農林水産省



リモート参加の松永裕幸校長

屋久島の北西12kmに位置する島、「口永良部島」。手つかずの自然が広がり、島全体が国立公園、ユネスコエコパークに認定されている。島民の環境に対する意識は高く、住宅地を歩いてもポイ捨てごみは見当たらない。しかし、島の北部にある西ノ浜海岸は、ごみの漂着場所として知られ、同校の児童生徒と全島民が協力してごみ回収に励んでいる。その活動中に生じた疑問から、漂着ごみの実験を開始。洗濯機にプラスチックを入れて、マイクロプラスチックになるまでの劣化の様子を再現するなど、仮説を立てながら実験を繰り返し、課題解決を探る。島の希少な自然の調査に来た大学講師や大学生と交流を深めながら、専門的な知識も得ている。屋久島で開催された「世界遺産学習全国サミット」では、西ノ浜海岸の漂着ごみの現状や取り組んだことを来場者に語り、反響を呼んだ。少子高齢化が加速する島の児童生徒だけでは、やりたい活動も制限されるが、山海留学生を受け入れている同校では、多様な取り組みに挑戦できる。島民に見守られながら、大好きな島の自然を継承する意志が着実に育まれている。

鹿児島県屋久島町立金岳小中学校の皆さん

「口永良部島は、あまり知られていない島かも知れませんが、この受賞を機に、一人でも多くの方々に島のことや私たちの環境に関する取り組みについて知ってもらえたらとてもうれしいです。そしてこれからも、学校と地域の方々全員で美化活動に励んでいきたいと思っています」



鹿児島県 環境林務部 廃棄物・リサイクル対策課 主事 鍋田 直輝様(写真右)

「今回の表彰は、学校が代表として表彰を受けますが、口永良部島全体で取り組んでいる活動でもありますので、島のみなさんで喜びを分かち合っていたいだきたいと思っています。最優秀校としてしっかりと形になって評価されることは、とても価値のあることです。県として、今後も環境教育を推進していきたいと考えております」



鹿児島地方連絡会議 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 サステナビリティリレーション部 サステナビリティリレーション2課 課長 藤久保 敦士氏

「大好きな島が大量の漂着ごみで汚されている現状に、子どもたちはあきらめることなく立ち向かい、島民の皆さんと定期的に清掃しており、屋久島ESDから口永良部島独自の教育をつくり上げている学校の先生たちの努力も見えて取れる、素晴らしい取り組みです。地連として島の清掃活動に参加できればいいなと思っています」

歴史的資源の保存や伝承、地場産業を通じ地域の財産守り抜く

農林水産大臣賞 青森県 鱒ヶ沢町立舞戸小学校

青森県の西海岸に位置し、津軽藩の御用港として栄えた鱒ヶ沢町。同校では、その環境を生かした学習を展開している。長年取り組むのが「鱒ヶ沢町小中一貫ふるさと学習」。有形・無形文化遺産が点在する町の歴史的資源を、地域財産として継承するために、児童は、町の学芸員から、津軽藩や北前船貿易の歴史を学んでいる。代々続く「鱒ヶ沢甚句流し踊り伝承」は、住民から踊りをしっかりと伝授。一方、「食に関する学習」も盛んで、農家の協力でリンゴなどの収穫を体験。その過程で地場産業の農業が豊かなのは、土壌や自然環境が守られているからだということを感じ。こうした学びの集大成として、「海洋環境保全学習」を実施。主に鱒ヶ沢海水浴場周辺の清掃で、青森海上保安部員から海洋ごみの種類などを学習している。海岸の漂着ごみは少ないが、多様な体験を積んだ児童の環境意識は高い。8のつく日をリサイクルデーに設定、町の美化に貢献。住民の指導を得て蓄積された児童の6年間の学びは、豊かな歴史に育まれた鱒ヶ沢町への恩返しという形に姿を変えている。



青森県鱒ヶ沢町立舞戸小学校の皆さん

「この受賞は歴代の方々の活動の積み重ね、そして地域の方たちが支えてくださったおかげだと思っています。これからも鱒ヶ沢町の自然を守りたいという心を醸成する、そんな子どもたちの芽をどんどん伸ばしていきたいと考えています」

青森県教育庁 学校教育課 小中学校指導グループ 指導主事 中山 康人様 (写真右)

「舞戸小学校では、地域の資源の魅力を理解し、環境保全に主体的に取り組む活動が盛んに行われています。特に、海洋ごみ問題に着目し、海上保安部の方から漂着ごみの様子を学びながら、海の保全学習を展開しています。また、学芸員からは地域の歴史を学ぶなど、教科横断的に全校で取り組む点が評価されたことを嬉しく思います」



青森地方連絡会議 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社 執行役員 グループ管理本部 副本部長 兼 グループ人事部長 阿部 嘉氏

「舞戸小学校は、元力士「舞の海」の母校です。舞の海さんのように、地方の小さな学校からでも、立派なことを成し遂げられるのを証明できたかなと、本当に誇らしく思っています。地連としても、県の方々といっしょに、これからも素晴らしい取り組みを評価していきたいと考えているところです」

大浦未来学を通じた児童の発信や行動が住民を動かし地域に浸透

環境大臣賞 京都府 舞鶴市立大浦小学校



若狭湾国定公園に指定された大浦半島全域を校区に持つ同校では、恵まれた環境を舞台に多様な活動を行っている。長年取り組むのが、住民とともに漂着したペットボトルなどを回収する「クリーン作戦」。近年は、大量の漂着ごみに加え、マイクロプラスチックも目立ち、地場産業の漁業に悪影響を及ぼすようになった。それがきっかけの一つとなり、同校では「大浦未来学」と称した体験学習を実施。マイクロプラスチック回収では、大学や観光協会の指導を得ながら、回収したマイクロプラスチックの特徴を生かし、児童はピンバッジなどを作成、啓発活動を行っている。また、多くの人に現状を知って欲しいとの思いから、ポイ捨てごみなどで楽器を作る取り組みにも挑戦。その体験を通じ、プラスチックのことを詳しく学んだ児童は、生分解性プラスチックを作って実証実験も行う。その際に必要な資金は、自分たちで地域に呼びかけてアルミ缶回収を行い、その収益金でまかなった。児童の発信や行動は、住民の心を動かし地域に浸透、協力の輪が徐々に広がっている。

京都府舞鶴市立大浦小学校の皆さん

「地域をより良くしようとみんなでいろんなことを考えて行動に移した結果、最優秀賞を受賞することができて本当にうれしいです。後輩たちには、これからも大浦未来学でたくさんの人たちと交流し、環境や地域のことについて考えてもらいたいです」

京都府 教育委員会 統括指導主事 平山 孝次様(写真右)

「ごみを題材にして大浦小の子どもたちが疑問に思ったことを追求していく姿が、いま求められている探究的な学びそのものだと思います。さらに、学校だけでなくとどまらず、地域といっしょに取り組むことで地域全体が明るくなり、子どもたちも地域の役に立ったという実感を持つことができると考えています」

京都地方連絡会議 ダイードリンク株式会社 近畿営業部 神戸オフィス 参事 山名 裕之氏

「リサイクルは他校でも取り組まれていると思いますが、その先のマイクロプラスチックでアクセサリを作って啓発活動を行うとか、アルミ缶回収の収益金を環境活動に回すとか、大浦小学校の取り組みは斬新で、他校や他県でも取り組めるアイデアだと思います。私自身、大変勉強になりましたので、今後発信していきたいです」



漂着ごみから生まれた楽器演奏で資源の大切さを発信する7名

協会会長賞 徳島県 ^{ながはら}松茂町立長原小学校

紀伊水道が目の前に広がる豊かな環境を生かした活動を行っている。校区にある長原漁港の清掃は、漁協や自治体と連携しながら40年以上続く伝統行事だ。同校の近くにある海岸清掃も行う中で、児童は繰り返し使えるごみ箱を手づくりしたり、回収ごみの重さを量って記録したりと、活動を深化させていった。その過程で、ごみ回収に熱心に取り組んでも、ごみがなくなる現状に憂慮した児童は、広く発信したいという思いが高まった。回収した漂着ごみを生かしてアピールしようと、「ごみアート」を開始。イベントなどで展示紹介すると反響を呼び、手ごたえをつかんだ児童は、「ごみで楽器製作」にも挑戦。大学講師や大学生の指導を得て楽器は完成し、アーティストたちとセッションを行った。ごみから奏でられる音色を耳にし、感動を胸に刻んだ児童は、「とくしま環境学習フォーラム」で活動成果を発表した。同校の児童数は現在7名。数年後には廃校の可能性もある小規模校だが、海岸清掃を通じて成長した7名の活動は、地域内外に大きなインパクトをもたらしている。



徳島県松茂町立長原小学校の皆さん

「私たち7名で頑張って海岸清掃をしてきたから、頂けた賞だと思います。この受賞を機に、海岸にごみを捨てない町になって欲しいと思います。そして、海岸清掃活動を、世界中に広めていく学校にしたいです」

徳島県 危機管理環境部 グリーン社会推進課 エコみらいとくしま (環境首都とくしま創造センター)

係長 (GX戦略担当) 宮内 博史様 (写真右)

「長原小学校は、ごみ問題解決に向けて、子どもたちが自分で考えて主体的に取り組んでいたこと、外部の講師を招いたり、上勝町ゼロ・ウエストセンターに見学に行ったりなど校外的な活動も積極的に取り入れていたことが評価につながりました。最優秀賞受賞が新聞等で報道されたこともあり、波及効果を期待しています」

徳島地方連絡会議 大塚製薬株式会社 徳島本部 環境課 課長 磯野 直博氏

「今回の受賞は、県のご協力にも支えられて成し遂げることができました。長原小学校の子どもたちにとって、表彰式に参列し、活動内容を発表するこのような機会は、授業では学べない大きな経験になると思います。こうした活動の様子を、これからも間接的にも直接的にも伝えていきたいと考えています」



第24回 環境美化教育優良校等表彰事業 表彰校一覧

最優秀校 (4校)

- 文部科学大臣賞 鹿児島県 屋久島町立金岳かながだけ小中学校
- 農林水産大臣賞 青森県 鱒ヶ沢町立舞戸まいと小学校
- 環境大臣賞 京都府 舞鶴市立大浦おおうら小学校
- 協会会長賞 徳島県 松茂町立長原ながはら小学校



優秀校 (6校)

- | | | | |
|-----|----------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------|
| 新潟県 | 新潟市立岡方第一 <small>おかかた</small> 小学校 | 富山県 | 高岡市立太田小学校 |
| 愛知県 | 田原市立泉小学校 | 山口県 | 上関町立上関 <small>かみのせき</small> 中学校・上関 <small>かみのせき</small> 小学校 |
| 高知県 | 高知市立高知特別支援学校 | 熊本県 | 南関町立南関第二 <small>なんかん</small> 小学校 |

優良校 (28校)

- | | | | |
|-----|------------------------------------|------|---------------------------------------------------------|
| 宮城県 | 石巻市立湊 <small>みなと</small> 中学校 | 秋田県 | 三種町立山本 <small>みたね</small> 中学校 |
| 山形県 | 天童市立成生 <small>なりう</small> 小学校 | 福島県 | 南相馬市立鹿島 <small>かしま</small> 中学校 |
| 茨城県 | 桜川市立桃山学園 | 栃木県 | 真岡市立物部 <small>もおか</small> 小学校・物部 <small>ものべ</small> 中学校 |
| 群馬県 | 桐生市立菱 <small>ひし</small> 小学校 | 千葉県 | 市川市立宮田小学校 |
| 東京都 | 稲城市立稲城第四中学校 | 神奈川県 | 湘南白百合学園小学校 |
| 石川県 | 能美市立辰口 <small>の み たつぐち</small> 中学校 | 山梨県 | 大月市立猿橋中学校 |
| 長野県 | 諏訪市立城南小学校 | 岐阜県 | 養老町立上多度 <small>かみたど</small> 小学校 |
| 静岡県 | 三島市立錦田 <small>にしきだ</small> 中学校 | 三重県 | 四日市市立内部 <small>うつべ</small> 中学校 |
| 滋賀県 | 東近江市立朝桜 <small>ちようおう</small> 中学校 | 大阪府 | 寝屋川市第一中学校区(街の学校SN) |
| 兵庫県 | 神戸市立高津橋 <small>こうづばし</small> 小学校 | 和歌山県 | 田辺市立田辺第三小学校 |
| 島根県 | 安来市立第一中学校 | 岡山県 | 吉備中央町立下竹莊 <small>しもたけのしょう</small> 小学校 |
| 愛媛県 | 松野町立松野中学校 | 福岡県 | 古賀市立小野小学校 |
| 佐賀県 | 佐賀市立中川副 <small>なかかわそえ</small> 小学校 | 長崎県 | 佐世保市立宇久 <small>うく</small> 小学校・宇久 <small>うく</small> 中学校 |
| 大分県 | 大分市立植田東 <small>わさだひめし</small> 中学校 | 宮崎県 | 宮崎市立本郷小学校 |

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第24回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校において授与式が行われました。その様子を一部ご紹介します。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

新潟県 新潟市立岡方第一小学校

おかがた だいいち

地域にある十二潟には、新潟県の絶滅危惧種であるアサザやガガブタなど貴重な植物が生息している。児童は、地域団体「いろいろ十二潟を守る会」や県立植物園、自治体、住民などと連携し、次世代に継承するために全学年を通じ多様な保全活動を実施。十二潟の歴史を学び、生き物調査や観察会を行いながら、ポイ捨てごみ回収、外来種の駆除にも取り組む。その後、活動成果をまとめて地域内外に発信。また、マナー看板や啓発ポスターを作成し、広くPRしたことにより、住民の十二潟への関心が向上し、不法投棄も減少している。

「単年の取り組みではなく、各学年が継続して取り組みを続け、結果をまとめて地域と協力しながら次世代に継承していく活動は、素晴らしい取り組みですし、我々大人にとってもたいへん勉強になります」

[授与式の出席者]

- 新潟県 新潟市立岡方第一小学校の皆さん
- 新潟県環境局 環境政策課 課長 覚張 昌一様
- 新潟県環境局 環境政策課 主査 中川 徹様
- 新潟地連 小樋山 規之氏 (サッポロビール株式会社)
- 新潟地連 片山 史生氏 (サッポロビール株式会社)
- 新潟地連 武田 圭一氏 (キリンビバレッジ株式会社)



熊本県 南関町立南関第二小学校

なん かん だいに

60年以上にわたりアルミ缶や古紙などの資源回収活動を行っている。事前に校区全戸に回収依頼のプリントを配布、当日は、各家庭でストックしていた資源物が軽トラック等で学校に運ばれ、高学年が住民と協力しながら分別の作業に当たる。ほかにも、SDGsの理念に沿って、持続可能な開発目標の実現に向けて取り組むのが、ホタルの飼育。校区にある「久重ホタルの里」や、地元企業、地域団体、行政と連携しながら、ホタルの飼育・放流活動を行っている。この体験を通じ、地域の自然環境を知った児童は、環境保全の学びを深めている。

「私たちが活動することで、ほたるが増えていくのは、いいことだと思います。これからも、元気に育ってくれればうれしいです。そして、受賞を機に、この活動がますます盛り上がっていくことを期待しています」

[授与式の出席者]

- 熊本県 南関町立南関第二小学校の皆さん
- 熊本県 環境立県推進課 大川 歩子様
- 熊本地連 田代 浩氏 (熊本県果実農業協同組合連合会)



【優良校】受賞校28校のうち4校を抜粋紹介

宮城県 石巻市立湊中学校

東日本大震災で被災した校舎の修繕工事が終わったのを機に、郷土愛を育む一環で始めた学校周辺の清掃。その活動を機に、自分たちが住む湊地区全体に目を向けるようになった生徒は、小学生にも呼びかけて「小・中連携地域清掃」を開始した。当日は、小学生にごみ拾いの仕方



や分別方法を指導するなど生徒が終始リード、全体の美化意識が磨かれている。

「このような賞をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、地域と連動した環境に関する活動を通して、大事なふるさとに誇りをもてる生徒を育てていきたいと考えています」

[授与式の出席者]

- 宮城県 石巻市立湊中学校の皆さん
- 宮城地連 鈴木 玲氏(ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社)
- 宮城地連 工藤 陽子氏(キリンビール株式会社)

千葉県 市川市立宮田小学校

「宮田小に自然を増やそう大作戦!」と題し、4年生が中心となって環境をテーマにした取り組みを行っている。市川自然博物館学芸員をはじめ住民と連携して、地域の生態系を学びながら、自然環境を整備。他学年でも、花農家の指導で花壇への植栽活動を行い、



ヘイケボタルの生育を通じ、環境回復に挑む。また、校区の中学校とともに地域清掃を実践中だ。

「『自然を増やしたい』という子どもたちの思いを、たくさんのボランティアが支えてくれました。地域の清掃活動を含め、これらの取り組みを評価されたことは、子どもたちの自信と誇りにつながったと思います」

[授与式の出席者]

- 千葉県 市川市立宮田小学校の皆さん
- 千葉県教育庁 学習指導課 福田 雄介様
- 市川市教育委員会 学校指導部 村上 勝正様
- 千葉地連 大住 恒三氏(コカ・コーラボトラーズジャパンビジネスサービス株式会社)
- 千葉地連 三木 邦夫 氏(キリンビバレッジ株式会社)
- 千葉地連 松岡 充晃 氏(キリンビバレッジ株式会社)
- 千葉地連 佐久間 潤 氏(アサヒビール株式会社)

神奈川県 湘南白百合学園小学校

片瀬海岸の近くにある同校では、海岸で活動する多様な環境美化団体と協力しながら、全学年で海岸清掃活動に取り組んでいる。「海の活動」と称し、漂着ごみを回収した後は、外部講師を招き、海の環境保全について学びを深めているのが最大の特徴だ。活動を通して、児童は自分



たちにできることを自ら考え広く発信、継続的に取り組む意欲が育っている。

「海の環境保全を教室で学び、自分たちが今できることを主体的に考えながら実践していて、大変頼もしいです。今後この取り組みを多くの方に知ってもらい、活動の輪が広がっていくことを期待しています」

[授与式の出席者]

- 神奈川県 湘南白百合学園小学校の皆さん
- 神奈川県環境農政局 環境部 資源循環推進課 丸山 すみれ様
- 神奈川地連 渡邊 隼人氏(コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)

島根県 安来市立第一中学校

生徒会整美委員会が中心となって、JR安来駅舎とその周辺の清掃に取り組んでいる。2002年から継続して行っているボランティア活動で、毎年多くの生徒が参加。清掃中には、住民や観光客から「今の時代、貴重な活動ですね」と温かい声が寄せられ、生徒の自己有用感の醸成につながっている。清掃後はごみの分別を実施、リサイクル意識も向上している。



「生徒たちによる自主的な清掃活動や地域貢献活動が、地域の方とのつながりを深めるいい機会になっています。この取り組みを大切に守り育ててきた地域の皆さまや先輩たちにも、感謝の気持ちでいっぱいです」

[授与式の出席者]

- 島根県 安来市立第一中学校の皆さん
- 島根県教育庁 松江教育事務所 指導主事 秦 美沙江様
- 山陰地連 白井 章広氏(コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)

[トピックス]

秋田県 大仙市立大曲南中学校
令和5年度文部科学大臣優秀教職員表彰
「社会に開かれた教育実践奨励賞」(教職員組織)受賞

前回の第23回環境美化教育優良校表彰で最優秀校を受賞した、大仙市立大曲南中学校が、文部科学大臣優秀教職員組織として、令和5年度「社会に開かれた教育実践奨励賞」を受賞しました。この賞は、民間の団体等からの推薦と有識者による選考により授与されるものです。当協会は、この事業の開始から、推薦団体に採択されています。

[トピックス]

学習ガイドブック
「消費者教育教材表彰2023」優秀賞受賞

当協会で作成した「資源になる! ごみから考える環境問題の学習ガイドブック」が、「消費者教育教材表彰2023」(公益財団法人消費者教育支援センター主催)の消費者団体・NPO部門で優秀賞を受賞しました。同表彰は、行政、企業、消費者団体・NPOなどが作成した教材資料の中から、教育現場に役立つ優秀なものを表彰するものです。

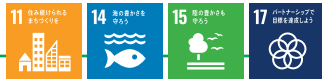


「統一美化マーク」をここに掲げて…

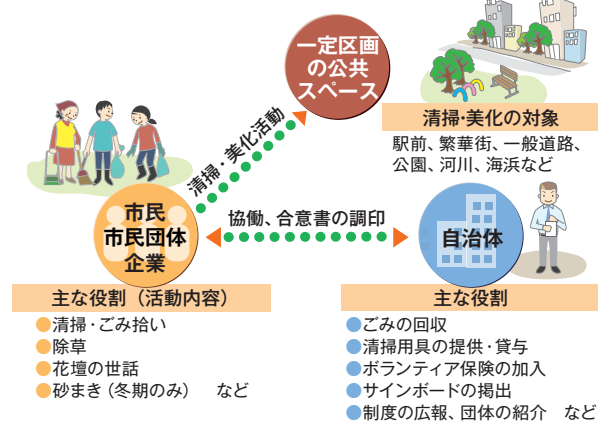
「のんだあとはリサイクル」 あちらこちらでお目にかかるこのマーク、じつは「統一美化マーク」と呼ばれています。1981(昭和56年)以来、食環協から消費者のみなさまへのメッセージとして、新聞・テレビ広告、自動販売機、道路沿いの立看板、のぼり、横断幕などに登場しています。



アダプト・プログラム



食環協(食品容器環境美化協会)は、「環境美化」を目的に、全国の飲料メーカー団体が組織した公益社団法人です。設立は1973年。設立以来、「ポイ捨て防止」キャンペーンをはじめとする多面的なPR活動を展開しています。また、「日本版アダプト・プログラム」の情報センターとして、積極的な調査・研究・普及活動を進めています。



環境教育の支援



児童向け環境学習サイト「まち美化キッズ」の提供

「なぜまちをきれいにするの?」「どうしてポイ捨てしてはいけないの?」ということを子供たちに考えてもらえるよう問題提起型の内容になっています。また、教育現場に即したツールを意識し、効率よく学習できる要素を盛り込み、様々な授業展開が可能ないように努めました。



先生向け学習ガイドの提供

環境教育の重要性が増す中、環境美化教育が圧縮される傾向に対応し、コンパクトに授業が実施できるよう現場教師の意見を反映する工夫を入れました。また、「まち美化キッズ」教材と連動して、授業が展開できるよう、学校教師の指導書として制作し、2022年3月改訂しました。



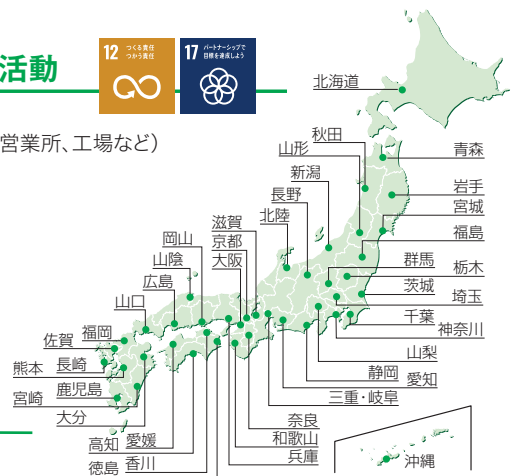
全国をカバーする拠点網「地方連絡会議」が地域に密着して活動



地方連絡会議は、県単位(もしくは同じエリアの複数県)で、その地域に拠点(支社、支店、営業所、工場など)のある飲料メーカーで構成し、全国各地で42の「地方連絡会議」が活動しています。

食環協を構成する飲料メーカー6団体

- 一般社団法人 全国清涼飲料連合会
一般社団法人 全国トマト工業会
一般社団法人 日本果汁協会
日本コーヒー飲料協会
コカ・コーラ協会
ビール酒造組合



[編集・発行]

公益社団法人 食品容器環境美化協会 (食環協)

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・ビル6階
TEL. 03-5439-5121 FAX. 03-5476-2883
URL https://www.kankyobika.or.jp/

食環協についてはこちらをご覧ください。

